

第三者評価結果の公表事項(乳児院)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

②評価調査者研修修了番号

SK2025010 第2005-27号 第2016-03号 第2017-03号

③施設の情報

名称：麦の穂乳幼児ホームかがやき	種別：乳児院	
代表者氏名：横川 哲	定員（利用人数）： 15 名	
所在地：岐阜県中津川市千旦林1468-52		
TEL：0573-78-0270	ホームページ：http://www.muginoho-gifu.com	
【施設の概要】		
開設年月日 2001年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 カトリック名古屋教区 報恩会		
職員数	常勤職員： 37 名	非常勤職員 3 名
有資格 職員数	（資格の名称） 名	
	保育士 27 名	臨床(公認)心理士 1 名
	看護師 7 名	社会福祉士 3 名
	栄養士 3 名	助産師 1 名
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	プレイルーム 寝室3室 小規模グループケア 3か所 子育て支援短期利用室 1室	事務室 会議室 職員休憩室 観察室 浴室 ほふく室 母子養育指導室 洗濯室 第2事務所 地域支援棟さくらんぼ

④理念・基本方針

【理念】 隣人愛 ～すべての人々を大切に～

【基本方針】

麦の穂乳幼児ホームかがやきは、子ども達の未来が幸せいっぱいになり輝くように願いを込めて『かがやき』と名づけました。優しく暖かな雰囲気の中で、包容力いっぱいを守り育て、からだも心も共に健やかな成長を願って養育看護に努めます。

1. 子どもの権利擁護

ことばでうまく気持ちを伝えることができない乳幼児の権利侵害を防止するために、児童憲章と権利条約の理念、乳児院倫理綱領を遵守し、子ども達へのいかなる差別・虐待を許さず、不適切なかかわりをしないよう自ら律します。

2. 温かい家庭的な環境

人間の人格形成は乳幼児期の関わり・育て方によって大きく左右されることを職員相互が真剣にとらえ愛される喜び、温かく抱擁される心地よさを味わうことができるホームづくりに努めます。

3. 発達の支援 個別対応

ひとりひとりの子どもがその子らしく、のびのびと生活できるよう、月齢は発達に応じた養育、個別の対応を行います。

4. 家庭への支援

子ども達の家庭環境を十分理解するためのアセスメントを丁寧に行い、関係機関と協働し、保護者・里親とともに子どもたちの成長を喜び、温かみのある支援を実施します。

5. 地域との交流、地域の開かれた子育て支援の場所として機能を生かした運営に努めます。

【職員の心得】 か 語り合おう
が 学習しよう
や 優しい心と柔らかな態度で
き キラキラした子ども達の目の輝きを大切に

⑤施設の特徴的な取組

①「乳幼児総合支援センター」構想を実現する取り組みを強化している。

妊産婦への支援や市町村からのショートステイなど母子支援を実践するために、敷地内に宿泊機能のある支援棟を新築した。予防的支援機能強化に力を注ぎ、関係機関と連携しながら地域から必要とされる乳児院・社会福祉法人の取り組みを充実させている。

②子ども一人ひとりの適切な養育環境の永続的保障をめざし取り組みを強化している。

子どもの住環境を豊かに整えられるよう、支援目標を共有し日々の生活・養育のいとなみを大切にしている。またつながりのある養育が子どもの存在そのものを尊重することとして丁寧なやり取りができるよう、法人内施設、関係機関と共に取り組んでいる。

③人材確保・職員の定着に向けた取り組みを重視する。

少子高齢化が進む中で、社会的養育の取り組みを充実させるためには、職員の確保と定着、育成が必要不可欠である。職員一人ひとりがチームの中で支えられ、お互いの存在を大切に、相互にスキルアップを図っていけるよう、適切な職場環境づくりや人材育成に取り組ん

でいる。

◎ 地域貢献事業：(上記を実現する為の、より具体的な取り組みとして)

- ・子育て短期支援事業（ショートステイ）
- ・妊産婦等生活援助事業「にんしん育児 SOS」
- ・育児支援事業 ぴよぴよ広場
- ・里親支援事業
- ・里親の一時的な休息のための支援（レスパイトケア）
- ・実習生、ボランティアの受け入れ

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（和暦）	令和 7 年 7 月 2 9 日（契約日） ～ 令和 8 年 3 月 3 1 日（評価結果日）
前回の受審時期 （評価結果確定年度・和暦）	令和 4 年度

⑦ 総評

◇特に評価の高い点

<子どもの笑顔と安心を育む温かな担当養育制の実践>

担当養育制と小規模グループホームケアを基盤に、子どもが信頼できる大人との安定した愛着関係を築けるような取り組みが施設全体に根付いている。職員はハンドブックを携行し、ミーティングでの読み合わせを通して、受容的・応答的な関わりを日常の養育の柱として実践している。子どもが不安を抱いた際には速やかに気持ちを受け止め、感情が高ぶった場面では他の職員が自然に寄り添って支える等、温かなチームケアが機能している。

<妊娠期から母子を支える切れ目ない支援体制>

2024年に開始した妊産婦等生活援助事業「にんしん育児 SOS」や、宿泊機能を備えた支援棟の新設により、妊娠期から育児期まで一貫して母子を支える「乳幼児総合支援センター」構想が具体化している。助産師を中心に、心理・看護・栄養・家庭支援の専門職が連携して母子を多面的に支える体制が整っている点は大きな強みである。さらに、9市町村とのショートステイ契約や要保護児童対策地域協議会、特定妊婦会議での情報共有等、行政・関係機関とのネットワークも緊密に機能している。

<多職種連携による個別的・継続的な自立支援計画の実践>

アセスメントシートと統一様式を用いたケースカンファレンスにより、心理職・看護師・栄養士・家庭支援専門相談員・保育士が連携して個別の自立支援計画を策定・見直しする体制が整っている。毎月の家庭支援会議やグループ会議でモニタリングを行い、子ども相談センターとも援助指針を定期的に調整することで、計画は子どもの状況に応じて適切に更新さ

れている。さらに、昨年度には養育ハンドブックを大幅に刷新し、他部門の意見を取り入れた新版を全職員に配布する等、施設全体で支援の質を高める取り組みが進められている。

<地域に開かれた子育て支援拠点としての積極的な地域貢献>

毎月開催している「ぴよぴよ広場」や子どもフェスティバル、里親サロン、訪問支援事業等、施設の専門性を地域に還元する活動が幅広く行われている。子育て短期支援事業（ショートステイ）や里親支援、レスパイトケア、ボランティア受け入れ等、地域のニーズに応じた多様な支援メニューを整え、地域支援の拠点としての役割を果たしている。また、地域の回覧板やSNSによる情報発信、消防団への職員参加を通じて、地域住民との信頼関係づくりにも積極的に取り組んでいる。

◇改善を求められる点

<今後の経営環境への対応と持続可能な経営基盤の強化>

経営環境の分析や課題整理が進められ、業務効率化や経費節減等、安定した運営に向けた取り組みが着実に進められている。一方で、少子化の進行や制度の変化が続く中、予算を伴う中・長期的な経営計画の具体化を進めるとともに、コスト管理の共有にとどまらず、現場職員の経営への参画意識を高めていくことが求められている。また、施設の多機能化によりコスト増や人員配置の複雑化が見込まれるため、法人全体で財務・労務体制をさらに強化していくことが、持続可能な運営に向けた重要な課題となっている。

<地域環境の変化を見据えた支援拠点機能の柔軟な再構築>

これまで「ぴよぴよ広場」や子どもフェスティバル、ショートステイ等を通じて、施設は地域の子育て支援拠点として大きな役割を果たしてきた。一方で、リニア中央新幹線の開通により、地域の人口構成や生活圏が変わる可能性があり、これまでの支援ニーズや地域との関係性が変化することも考えられる。こうした変化を見据え、地域の実情に合った支援メニューや広報・連携の方法を柔軟に見直していくことが求められる。これまで大切にしてきた「地域に寄り添う姿勢」を保ちながら、新たな地域ニーズに応えられる拠点機能の再構築に向けて、中・長期的な検討を進めていくことに期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

評価項目の内容について職員全体で読み合わせることで、子どもや保護者への支援の在り方について課題や不足を洗い出し、今後どのような取り組みが必要かを協議する良い機会となっています。評価項目を振り返る中で、自分たちの強みを再確認できたことも、職員のモチベーション向上につながっています。

多機能化の充実を図ることで、職員にはより高いスキルが求められます。また、施設経営の課題として、労務管理や人材育成、人材の確保・定着も重要なテーマとなっています。

改善を求められた点については、法人内でも検討を進め、今後も多様化する地域のニーズに応えられるよう、より満足度の高い持続可能な施設運営を目指して取り組んでいきたいと考

えています。

⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。